

伊丹市議会議員 **おおつる 求** の活動報告

みんなちがって、 みんないい



コロナ禍での学校園臨時休校を振り返る

全国一斉の休校要請「正直申し上げて、疑問を持った」

— 代表質問に教育長答弁「一番の被害者は子どもたち」 —

会派「フォーラム伊丹」保田議員の代表質問「新型コロナによる臨時休校の検証」に対し、木下教育長は次のように振り返った。

国の休校要請について「この時点で本市の子どもに感染事例が無かったことなどから、正直申し上げて、休校措置に疑問を持った」。

また、3月2日からの休校要請だったが「各学校において、課題など準備時間を確保する為、1日遅らせる休校措置を決定した」とした。

子どもたちの気持ちを考えると断腸の思い

「一番の被害者は子どもたち。卒業・入学式の簡素化、宿泊行事・体育大会等も中止せざるを得なかった。子どもたちの気持ちを考えると断腸の思い」。

休校中は、「生活習慣の乱れをいかに防ぐか」、「学びを止めてはならない」と考え、学校再開の際は「いかにして子どもたちが休校中に受けた不利益を回復するかを考えていた」。

ココロとカラダ・学習のケア、今後の備え



1人1台タブレット

当初、5年かけて整備予定だったが、コロナ禍に対応するため、今年中に小中学校児童・生徒にタブレット端末が整備される。

「子どもたちの心のケアや学習の遅れ、学力格差や体力低下などに対応していく」とし、今後の対策としては、「ICT(情報通信技術)の積極的な活用や、オンライン学習の準備を進め、平時でも不登校や病気療養中の児童・生徒の学びにも活かしていく」と答弁した。

まだまだ続くと思われるコロナ禍での生活。この世代が成長において不利益な環境にならないように、みんなで協力し合いながら、子どもたちの学びを保障していきたい。

臨時休校(3カ月)の経緯

2020年2月27日夕刻

突如、首相から全国一斉
臨時休校要請

3月3日～

臨時休校、そのまま春休み

4月7日

県に緊急事態宣言発出
5月6日まで休校延長

5月4日

緊急事態宣言の延長に
伴い、5月末まで休校延長

6月1日 分散登校開始

6月15日 通常授業を再開

個人質問
報告

感染拡大防止の為、6月に引き続き、9月議会の質問時間も通常より10分短縮の40分。私は「仮称：総合ミュージアム構想」及び「伊丹市在日外国人教育基本方針」について質問した。



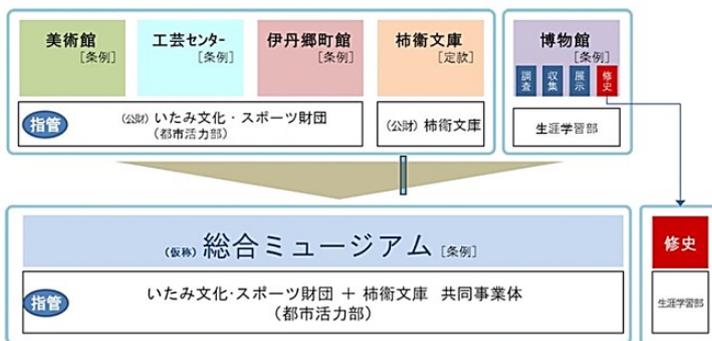
仮称「総合ミュージアム」を目玉施設にしよう！

伊丹郷町館・美術館・工芸センター・柿衛文庫からなる「みやのまえ文化の郷」を大規模改修したうえで、博物館を現地移転する「総合ミュージアム」構想。2022年4月オープンに向け、市は整備を進めている。

移転後も、博物館にはしっかりと学芸員を配置し、学校教育との連携、旧村調査等の活動など、従来通り行われることを確認した。また現地収蔵庫に入らない歴史的収蔵物のうち、出土遺物など考古資料や木製

農具等民族資料は、平松駐輪場内に建設する収蔵庫(約400㎡)に保管する。

ただ市が経済効率を優先したら、単なる“文化展示場”になってしまうため、適正人数の学芸員や、複数施設をコーディネートできる優秀な人材の配置等、プロジェクトチームを結成し、ソフト面の協議を始めるよう求めた。



伊丹市が真の多文化共生社会になるために



1994年、市は民族的偏見や差別が残っている在日韓国・朝鮮人児童生徒が「本名」を名乗れる教育環境づくりや、他の在日外国人教育にもあてはまる、という観点から「伊丹市在日外国人教育基本方針」を策定した。

また、その方針を活かすため、学校園指導者の手引きとして「在日外国人教育ハンドブック」(写真)を作成している。

伊丹市在日外国人教育基本方針への見解を質問したところ、「民族的対等な関係作りをする上で、教育に携わるすべての者に、基本的な考え方を示す“意義”があり、今に至るまでその“理念”を受け継ぐ“役割”を担ってきた」

「民族の違いを理解しながら、互いの良さを認め合う土壌が育まれている。これまでの取組み意義や役割を、若手教員や後の世代まで引き継ぐことが“課題”」との答弁があった。

近年、アジア諸国への罵詈雑言が社会に溢れ、特に在日韓国・朝鮮の方々に対する心無いコメントがネット上ではびこっている。ネットリテラシー(インターネットに関する知識・能力)など、情報の真偽を含め自身で判断する力が求められる。



伊丹市『内なる国際化』推進基本指針、伊丹市在日外国人教育基本方針の“存在意義”は、残念ながら、作成当時より現代の方が大きくなっているため、改めて学校園での活用を要望した。

9月議会 アレコレ

代表質問・個人質問あわせて22名が質問に立った9月議会。
その中から、身近な話題をアレコレとピックアップしてご報告します。



市立伊丹病院と近中による統合新病院の途中経過

4月1日、協定書を締結し、具体的な作業に入った新病院計画。

5月には大阪大学・医師会・両病院関係者で「統合委員会」を設置。
新病院の診療機能や診療体制、施設配置計画など議論を進めている。

6月から両病院の医師・看護師など医療従事者でワーキンググループ
を設置し、外来部門や診療センター・病棟など全23部門の検討を進めて
いる。2022年に工事着工、2025年度の開院を目指す。

一旦停止や安全確認、ルール・マナーの徹底を

本市は平坦な地形であることから自転車利用率が非常に高く、
交通事故全体に占める自転車事故が多い。年々増加傾向で、過去3年
平均で人口1万人当たりの事故件数は19.9件。(県平均は10.8件)

2019年度の事故を分析すると、通勤通学時間帯に、交差点及び
その付近で、中高年や若年層の事故が多い傾向だった。



市バス 抗菌・抗ウイルス施工

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、伊丹市バス全93両の座席、手すり、
つり革、レバーなどに有効成分を含んだ液体を噴霧し、抗菌・抗ウイルス
施工をした。この液体は天然ミネラルを主成分にカリウム・鉄・チタンなどで
出来ており、無臭で人体に影響が無い。

空気中の酸素と水分に働きかけ、菌やウイルスに酸化作用をもたらし、
滅菌、ウイルスを不活性化させる。概ね5年程度は効果が持続するという。

市独自施策の難しさを実感

コロナ禍の地元経済対策として独自施策をうっている市だが、広報や
市ホームページだけでは市民への周知が十分にできず苦勞している。

「就職内定取消者の臨時雇用」は応募者無し。「事業所賃料の補助」
は予算の38%(約8964万円)止まり。「テイクアウト・デリバリー利用促進
キャンペーン」は予算の3.3%と広がりを欠いた。

現在は「GoTo 伊丹キャンペーン」を実施中。来年1月末まで。



9月に行われたキャッシュレス
ポイント還元キャンペーン

フォト・ダイアリー [おおつる求ブログ・Facebook から]



[写真説明・左上から時計回り]

- 「広報伊丹」掲載写真のため、実演する自治会長
- 「多文化共生推進指針案」について副市長と懇談する市内人権団体の方々
- 3会派で教育長へ申し入れ(学力テストの中止)
- コロナ禍における原発事故時の広域避難に関する要望書を担当者へ手渡す市民グループの方々
- 御願塚古墳のカモ。癒される光景



今年度限定

高齢者インフル予防接種が無料

- 2021年1月31日まで
- 市内住民登録者であり、接種当日に満65歳以上の方、満60~65歳未満で重度身体障害がある方(*要件があります)
- 市外接種は、事前手続きが必要。

高齢者インフルエンザ予防接種専用

電話:072-764-7724

市政に対するご意見や疑問、お聞かせください。
困ったこと、悩んでいること、一緒に考えましょう。

大津留 もとむ
伊丹市議会議員 おおつる 求

[電話] 090-8122-7114 [Web] <http://ootsuru.com>

【プロフィール】1971年福岡県大牟田市生まれ。稲野町在住。
 ■近畿大学法学部法律学科卒 ■国際交流NPOスタッフとして「地球一周の船旅」参加 ■中川智子衆議院議員(現宝塚市長)秘書 ■建設従事者の組合・阪神土建労働組合書記局に入局
 ■2015年の市議選に社民党公認で当選。2019年に再選、2期目 ■会派「フォーラム伊丹」 ■稲野自治会副会長 ■防災士

日々雑感

- コロナ禍の猛暑でも、朝顔は咲く。
- アベノマスクも定額給付金も、世帯単位で給付する国。多様な家族のカタチが浸透するのは夢物語なのか。
- だんだんと会議や集会が始まる夏。
- 安保関連法(戦争法)強行採決から5年目。今年も街頭に立つ9月19日。
- 「なんとかする。」自閉症の子をケアする無認可団体を運営する彼の口癖。映画「スペシャルズ」。必見です。
- 「スガ」か「カン」か？ それも問題。
- 一万名の納骨が可能な市営合葬式墓地が、神津墓地内に来年3月完成。
- 人生は「ブレッド&ローズ」が必要と感ずる年。「パン」は最低限の生活、薔薇“は豊かに生きるための尊厳。”
- 子育てから親の介護へ課題が変化。
- 外国人学校幼稚園にも幼保無償化を求める請願、伊丹市議会にて採択。宝塚市議会に続いた。全国に広がれ。
- マスク外出の日常。必要無くなった時、マスク無いと違和感、となるのか。